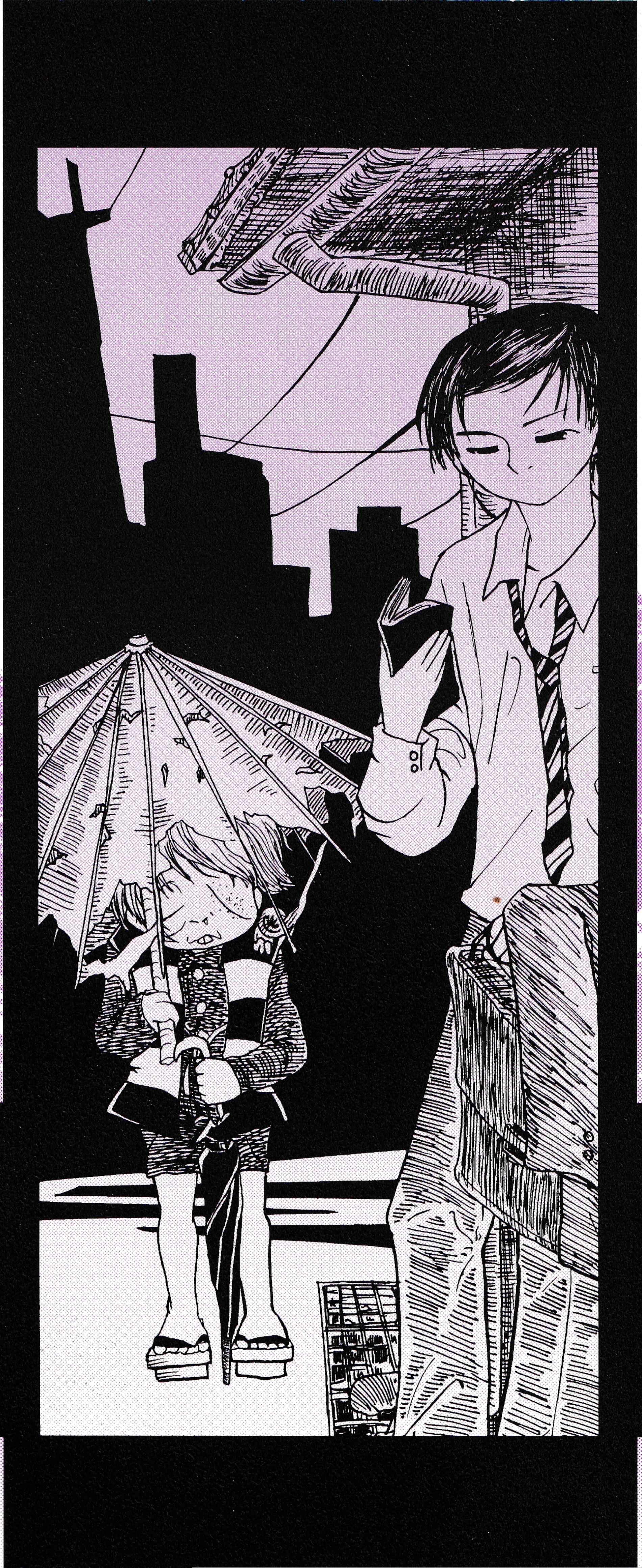
水木さんと墓場くん



□鬼太郎の育ての親「水木」さんと墓場鬼太郎ちゃんの本です。
□「鬼太郎の誕生」、「夜話」のイメージで、大分ドリームの入った微妙な関係の二人＋ α ですが楽しんでいただけたら幸いです。



□大分、水木青年のビィジュアルが別人でスイマセッ！
自分絵で描くときにどうするか悩んだのですが、子供の頃、鬼太郎の誕生を読んだ時、水木青年の美青年ぶりに驚いたのでその時のイメージと某佐藤さんよりもしょうゆ顔というかもう少し精悍な感じを目指してみました･･･。


来週、授業参観だそうです
へえ
お知らせ
という訳で水木さんお願いします
べ、別にいいけど…
お知らせ
……
ゴゴゴゴゴ
どうやら父さんは怒っているようです
オはようございます
アりがとうござい
シつれいしました
スいません
授業中の撮影はご遠慮下さい
どきどき


いいとこ見せたい
この漢字の読み方が分かる子いますか？
ムズかしいですよ
薔薇
夜話(ガロ)先生
小一なのに
バラです
正解！
あっ
いやいや
あんな難しい漢字が読めるなんて…大きくなったなあ…
じ〜ん
凄いじゃないか、鬼太郎くん


家族の肖像
せっかく父兄の方々がいらしているので
みんなが描いた家族の絵を見てもらいましょう
ど、どんな絵なんだい？
それがまだ途中なんです
緊張感のある関係
今見たら水木さんのうしろの人、増えてるみたいなんで
うわああ
ヤレヤレ

続・家族の肖像


人数と血みたいな塗りが気になるけど
子供らしい可愛い絵だな
クス
本当はボク、もっと絵が上手なんですよ！
へ、へえ…
まずは百六の質問に答えてください
霊紙に霊筆で点を打って
つなげれば
バタン


さっそく
その紙を燃やすんじゃや！
お父さん、まだ怒ってたの
あれま



鬼畜未満

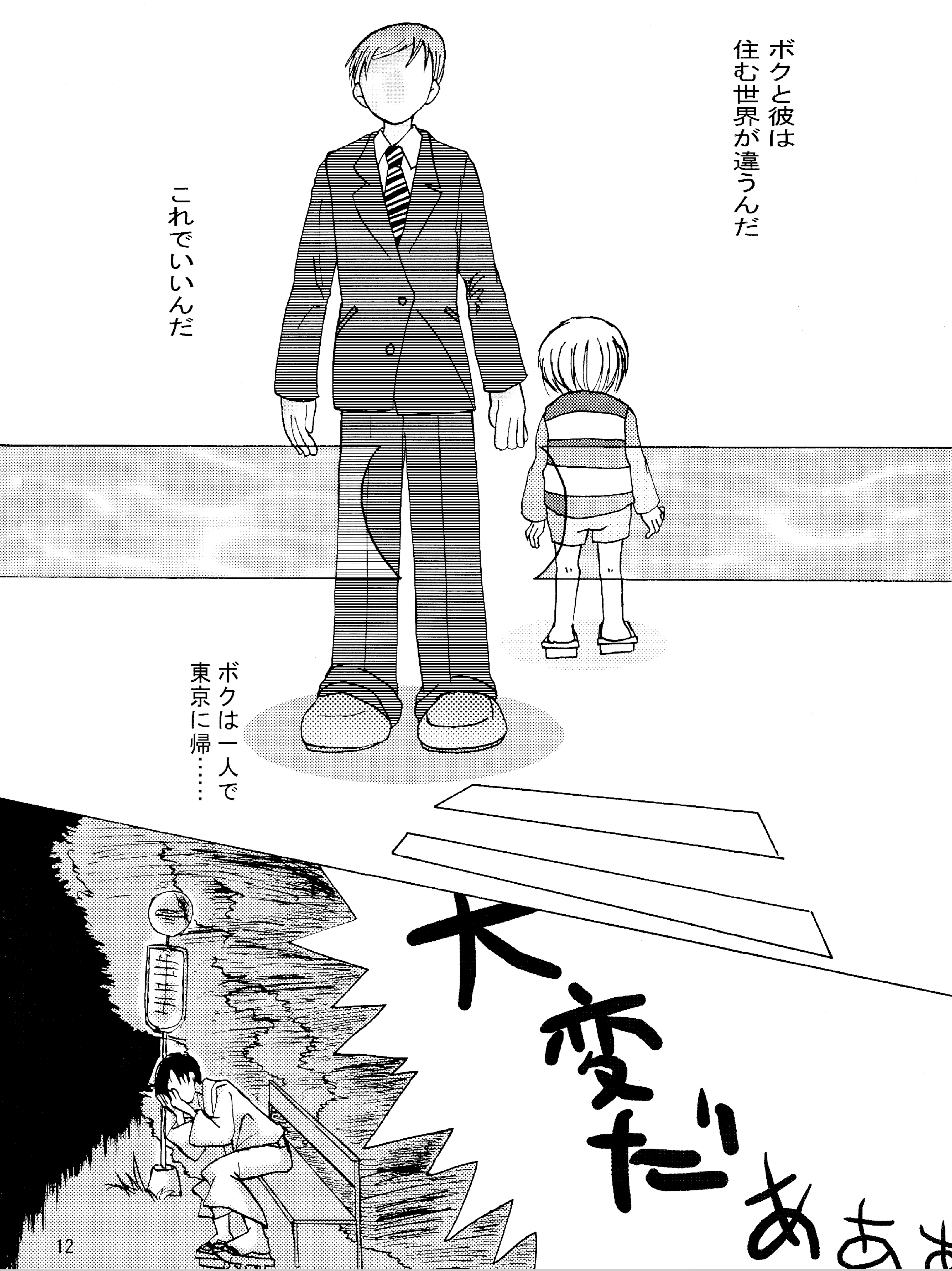

いくら腹が減ったからって……
あんなことしちゃ駄目だろ みんな驚…
ボリボリ
……
ホジホジ
ちーんしなさい
やれやれ
ホラ
のりなさい
この子には最後まで苦労する
ワッショ
しょい
豊
わっしょい



人の気も知らないで…
全くのんきなもんだ
おもしろいか
…今日が最後だというのに
今日、この子を捨てる
そのためにわざわざ、こんな田舎の祭りに来たんだ
今日、ここにこの子を捨てる


なんとか注意を逸らして
そのまま置き去りに…
鬼太郎、お面なんかは…
き…
…鬼太郎…？
鬼太郎!?
…これはチャンスじゃないか？
このまま…
このまま、置き去りにしてしまえば…
そのつもりだったはずだろう？
なのに…
鬼…


これでいい
あれはオバケの子だ


ボクと彼は
住む世界が違うんだ
これでいいんだ
ボクは一人で
東京に帰……
大変だああ


子供が池に落ちたぞーーー
そりゃエライこった
どこの子だ
わがんね
チャンチャンコを着た童だそうだ
キキー
まずい！
沈むぞ！


八郎
ダダダダダダダダダ




苦しい
ボクを
ボクを殺すのか
鬼太郎……!
この手を
この手を
振り払って
しまえば…


ダメだ
ボクには出来ない


おい居たぞ
おお
……あ……
大丈夫か!!
ありがとうございます
よくやった!
……
……
……
…帰るか



ボクには出来ない



※チャッキー…チャイルドプレイの主人公

チャッキー、ご成婚、第一子誕生おめでとうございます

ぼうしのうわばみ発行
2006年8月11日

↓女性向け多し
http://paralyze.xxxxxxxx.jp/





百舌鳥（もず）は夜泣く

「やっと見つけたぞ」

生暖かい風の吹く荒野を縺れる足を叱咤しながら走る。伸びっぱなしの雑草どもが脚に絡み付いて、行くな行くなと引き止める。冗談じゃない。目標は子ねずみほどの大きさだ、ここで逃したら今度はいつ捕まえられるか分かったものではない。
どこに行こうというのだ。
逃がさないぞ。逃がさないぞ。
とっくに息も上がっているが、それでも脚を止める気に離れない。脚のやつも心得たもので、指一本だって休みたいとぼやきはしない。汗ばんだ指で革靴をしっかと掴み、前へ前へと急ぐ。

追いかけているうちに忘れられた古い墓地に出た。ああ、おれは七年前から本当に墓場に縁があるなあ。いや、ヤツが墓土を、汚泥を好んでいるせいだ。ヤツさえ去れば私は日常に帰れるのだ。
倒れた墓石、盛り上がった土饅頭を踏み越えて、ついにヤツを追い詰めた。さあ、これで決着がつく。怪奇ともおさらばだ。

私たちはアナタに追い出されて、素直に去ったのに、なぜ追いかけるのです？

ああ、そうだよ。そうだよ。そのとおりだ。でもオマエは去る時に私の大切なものまでも持っていってしまったじゃないか。私の息子を返してもらおうか。

私はアナタの息子など知りもしません。

連れて行ってしまったじゃないか。おれの子を。返してもらおうか、キタロウを。

可笑しなことを言いますね。あれは私の息子ですよ。

ええい、ええい。だまれ、だまれ。おまえがアノ子になにをしたという。なにもしてないではないか。そしてこれからも何も出来はしないだろう。

それでも私は親なんですよ、アレの。アレのことを理解できるのも私だけでしょう。あなたには無理でしょう。

なんだと。

アレはオバケですから。

だまれ、だまれ。アレはもう七年も人として生きているのだ。怪し気な真似を始めたのをおまえのせいではないか。おまえさえ居なくなればそんなこともなくなる。さすれば、アレを正式に私の養子にだってしよう

「墓場鬼太郎」などと不吉な名前ではなく。
「水木鬼太郎」になるのだ。

なるほど、そうでしたか。
それを聞いて私も安心致しました。

目玉のヤツがそう言うと、ブクブクと音を立てて、おれの足元に地獄の釜が蓋を開ける。
ああ、あれほど俺に忠実だった脚が。
ちっとも動いてくれないのだ。

あれから一年が経ちまして。
無事に地上に帰ってきましたが、この喪失感、失望感は拭いようがありません。

ああ。
私のことなど思い出しもしなかったのでしょうね。
やはり私はただ卵を温めただけだったのでしょうか。

片思いというヤツでしょうかね。

